

# 返還の米軍建造物に石綿

那覇・牧港  
住宅エリア

## 多量に使用判明

### 県市解体作業でチェック

三十四年ぶりに五月末、全面返還された那覇市の在沖米軍基地・牧港住宅エリア（二六六・六六〇）の旧米軍建造物の天井などに、発がん性や肺障害の原因物質とされる石綿（アスベスト）が多量に使われていることがわかり、跡地利用のための解体作業に問題を抱えている。同基地は人口密集地の民間地に隣接、粉じんが飛び散る危険性もあるため、同市と沖縄県は解体作業が終了する九月中旬まで石綿汚染をチェックしていくことになった。

返還に先立ち、米軍側は三、四年前、那覇防衛施設局を通じて同市に「同エリア内の石綿は全部撤去。その石綿は米本園に送還、処分した」と伝えていた。実際は、石綿を直接



牧港住宅地区

月十四日まで。どの建物に石綿が使われているかはいえないが、その量は天井石綿セメント板六〇平方メートル、石綿セメント板（六三三号×二一八号）五百四枚、水道石綿高圧管七十管など

している。解体作業は、同施設局によると現在、作業員に防じん眼鏡、防じんマスク、防じん服、手袋、靴をつけさせ、粉じんが飛び散らないよう



牧港住宅エリアの天井の石綿板除去作業 30日午後3時

石綿 天然の無機繊維状鉱物の総称。耐熱、耐摩耗、耐腐食、防音性などに優れ、日本では建材を主に電気製品など三千種を超える製品に年間約二十六万トンの消費される。石綿繊維を吸入すると肺がん

などの健康被害をもたらす。世界最大の石綿消費国・米国では石綿が原因のがん死は年間一万人にのぼり、昨年一月、今後十年間の石綿の使用を全面禁止する方針を打ち出している。

う水をかけたり、ビニールシートで覆ったりして作業、廃棄物はビニール袋に入れて処理しているという。一方、施設局から石綿残留の事実を知らされた同市はすぐに県に連絡、県公害対策課は同月二十八日、撤去作業中の近くで大気中に含まれる石綿の濃度測定を行った。県公害衛生研究所が現在分析中。

策を取り、石綿粉じんをチェックしていかねばならない」（名嘉真武治・同市環境公害課長）と頭を抱えている。旧牧港住宅地区は、同施設局が建物を解体・撤去して原状回復し、年内には約千六百四十人の地主に返還される。

市と県は具体的な対策は分析結果待ちだが、「いずれにしても石綿の存在が確認された以上、市民に無用な不安を与えないためにも何らかの対

はそのままにしていた。同施設局によると、解体の対策は個人住宅、旧小学校舎、体育館など七百七十返されて初めて大量の石綿を二棟、解体工事は六月六・九